



第7回

自然体験で親子の思い出 海も山も満喫できる大島

海や山に恵まれた宗像市。今回は、自然を満喫できる大島で、うみんぐ大島の釣り大会と大島牧場体験で楽しむ親子の笑顔に出会いました。

問い合わせ先
元気な島づくり課 ☎(36) 1725

親子で力を合わせて奮闘 うみんぐ大島釣り大会

海洋体験施設「うみんぐ大島」で4月29日、オープン2周年記念釣り大会が開かれ、家族連れを中心に約150人が参加。釣り防波堤を会場に、アラカブやアジなど7つの部門で、魚の長さや重さを競いました。



釣り上げたアラカブを見せる田上さん家族

福岡市から参加した田上さん家族は「昨年に続いて2回目の参加です。今日は、20歳以上のアラカブと賞を目指して頑張ります」と闘志満々。残念ながら、目標の20歳には届かなかったものの、アラカブを釣り上げた長男の新(はじめ)くん(7歳)と次男の輝(てる)くん(6歳)も、大会を大いに楽しんでいました。お母さんの尚子さんに大島の印象を聞くと、「家族全員海辺が

好きで、年中、釣りをしています。大島は自然と海が印象的で、とてもいいところですね」と話してくれました。



願いを込めてヒラメの稚魚を放流する参加者

釣り大会の後は、公益財団法人日本釣振興会の協力で、魚資源の保護や海への感謝などを目的に、稚魚放流を実施。「大きくなあれ」という参加者の掛け声とともに、ヒラメの稚魚5000匹を海へ放流するなど、親子で大島の海と触れ合う1日となりました。

大自然で育つ 牛と触れ合った牧場体験



「大島牧場体験」を5月3日に開催しました。当日は、晴天に恵まれ、友人や家族連れの参加者50人でにぎわいました。牧場に到着後、牧場主の的場憲夫さんが「島には江戸時代から牧場があり、最盛期には年間100頭を出荷したこともあった。その後、牧場内を見学



ドキドキしながら牛に餌を与える子どもたち

ど、ほ乳するとレオくんがおとなしくなってきた。かわいかった。娘の美鈴ちゃん(6歳)と一緒に参加した大庭新司さん(河東)は「風車展



大人気だった子牛のレオくんへのほ乳体験

し、牛舎では、子どもたちが餌やりを体験。自分の手で与えた干し草をおいしそうに食べる牛を見て、子どもたちは「かわい」と大はしゃぎでした。最後は、ニュージャージー牛・子牛のレオくんへのほ乳体験。「あげたい人」と的場さんが声を上げると、子どもたちは「はい」と元気よく手を挙げ、順番にほ乳体験を楽しみました。家族で参加した小学3年生の柴田咲采(さや)ちゃん(河東)は「今日とても楽しかったです。説明すると、参加者は熱心に耳を傾けていました。その後、牧場内を見学

見所満載 夏休みはぜひ、家族みんなで大島へ

大島には、恵まれた自然環境が魅力の名所が満載です。その一つ、風車展望所からの絶景は、見の価値があります。5月3日、ハイキングを楽しむ伊藤野杏(のあん)くん(小学6年・河東)とお母さんに会いました。今だからできる親子の一生の思い出に、自然体験を楽しみに来たといいます。少し息を切らしながらも「来て良かったね」と親子仲良く話してくれました。この他にも、大島には、宗像三女神・田心姫が馬に乗って沖ノ島へ飛び渡った時にできた馬の足跡といわれる馬蹄岩(ばだしいわ)や、かんす海



風車展望所までハイキングを楽しむ野杏くん(左)とお母さん

舞台裏

■広報の仕事が始めて10カ月がたちました。文章を書くことはとても難しいと感じます。この仕事は、相手の立場に立って考える大切さがあるため、考えさせられる良い機会になっています。■これからも、市民のみなさんにより親しみをもち、届けるような情報をお届けしたいと思います。■「ありがとうございます」の取材で、10年間の取材で、毎日元気に過ごしている木屋恵美子さん。とてもきらきらしていて、「ありがとう」のパワーを感じました。■日々の生活に追われ、つい、忘れがちな感謝の気持ちにあらためて気づかせてもらえました。■取材で、たくさんの方に会える機会に感謝です。■宗像市で生まれ育ち23年目、4月から広報の仕事に携わることになりました。■広報の仕事では、まだまだ新人で、分からないことや難しいと感じることがあります。■たくさんの方との出会いを大切にしながら、宗像市の情報や驚いたこと、感動したことなどを、みなさんに伝えられるように頑張ります。(お)

島内観光無料バス

島を巡回する無料の観光バスを1日3便運行します。

- 日程 11月末までの土・日曜日、祝日と夏休み期間
- 時間 ▽10:00～ ▽11:40～ ▽14:25～ *各1時間程度
- 出発場所 大島港渡船ターミナル
- 定員 先着28人 *詳細は問い合わせを
- 問い合わせ先 うみんぐ大島 ☎(72)2361